出雲市立斐川西中学校　　令和８年３月発行　No.１６

地域学校運営理事会だより

～協働して支え合う共育の創造～

AI時代を生きるためには

地域学校運営理事会理事長　矢野　俊人

アメリカ映画で、ジェームズ・キャメロン監督による「ターミネーター」という作品をご存じの方は多いと思います。１９８４年に発表されてシリーズ化され、ＴＶでも何度も放映されています。

当時の触れ込みは、「未来で繰り広げられている、人類と機械の果てしない闘い。機械軍は、人類のリーダーであるジョン・コナーを歴史から消すべく１９８４年のロサンジェルスにターミネーターを送り込む。目的はジョンを産むことになるサラ・コナーの抹殺」というのですが、当時は単なるＳＦ作品として楽しんでいたのを記憶しています。ただその後、シリーズもの、ＴＶ放映など何度も観るたびに、どんどん現実の世界に近づきつつあり恐ろしく感じてきています。当時は、機械（!）となっていますが、今のＡＩそのものですね。人類は、核のスイッチをＡＩにゆだね、審判の日（核戦争）を迎える訳です。

身近なところでは、スマートフォンがＡＩによりどんどん進化していってます。機能が向上し、知りたい知識やＡＩを活用したゲームなどオンデマンドで対応できます。また言葉を発するのではなく、メッセージをやり取りすることが日常となっています。

果たしてそれでいいのでしょうか？便利さの代償として人間らしさが失われていく恐れはないのでしょうか？

ここでこれからのＡＩ時代を生き抜く方策として考えたいのが読書の効能です。あえて読書の素晴らしさをお伝えしたいと思います。

スマホ等に依存していくと活字離れが進み情報がストレートに脳を刺激する。確かに早いというメリットがありますが、無条件に受け入れてしまう。思考がストップする。

読書は、まず文字を読み、それを脳で映像イメージに変える。その体験が深い思考となり相手の気持ちを慮ることにもつながる。いじめなど相手の気持ちが理解できず短絡的に行動に移してしまうことから起きるのではないでしょうか。また、様々な経験を活字を通して積むことができる。偉人たちの素晴らしい生涯を疑似体験できる。その体験を積むことでＡＩに使われるのではなく使いこなす側に廻る。

幸いなことに斐川西中学校では、読書する時間がしっかりとってあります。一人でも多く本のすばらしさに目覚めてくれることを祈っています。審判の日を迎えないために。

地域の宝・日本の宝

地域学校運営理事会理事（株式会社出雲村田製作所 代表取締役社長）　谷口　育男

この度は寄稿させていただく機会をいただき、誠にありがとうございます。

地域学校運営理事会において、授業の様子を拝見したり、学校評価などを確認させていただく中で、日々感じていることがあります。それは、生徒の皆さんが元気に挨拶をしてくれる姿、そして合唱部や陸上部の全国大会出場をはじめとする、さまざまな分野で生徒の皆さんが主体的に活動している姿です。これらの姿は、私たち理事会の理事にとっても大きな励みであり、いつも勇気づけられています。これもひとえに、保護者の皆様や教職員の皆様のご尽力と温かいご支援があってこそであり、心より感謝申しあげます。

斐川西中の教育目標である「夢を持ち　自ら学び　心豊かに　（たくましく生きる生徒の育成）」は、生徒の皆さんがこれからの社会を生きる上で非常に大切な視点だと感じています。県外や海外にも目を向け、好奇心を旺盛に持つことは、自分の可能性を広げる第一歩です。世界の国々は仲間であると同時に、経済という視点ではライバルでもあります。競争力を高めていかなければ、必要な物資を他国から買いづらくなることもあります。協働力と競争力をバランスよく意識することが、これからの時代には求められます。

私は島根県外で育ち、現在は出雲市で働いておりますが、出雲市は人が温かく、自然にも恵まれた本当に暮らしやすい地域です。一度は進学や就職でこの地を離れることがあっても、改めて故郷の良さに気づき、戻ってきたいと感じる日が来ることと考えております。職場体験学習などを通して働き方の多様性を学び、将来、成長した皆さんがこの地域を支える存在となってくれることを、地域の一員として心から願い、そして応援しております。

令和7年度 地域学校運営理事会　（敬称略）

役　職	氏　名	地域団体等役職名	役　職	氏　名	地域団体等役職名
理事長	矢野　俊人	有識者	理　事	土江　英雄	桜水会会長
副理事長	鶴島　健治	教育後援会会長	理　事	谷口　育男	有識者
理　事	多々納　均	出西ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ長	理　事	間賀部和夫	有識者
理　事	江角　幸春	阿宮ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ長	理　事	稲田　律子	主任児童委員
理　事	岡　忠男	伊波野自治協会会長	理　事	大田　章生	ＰＴＡ会長
理　事	武部　純実	直江ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ長	理　事	片寄　泰行	ＰＴＡ副会長
理　事	高田　茂明	久木自治協会会長	理　事	吉谷不美男	校長

令和7年度　学校評価のまとめ

（※表中の数値は４段階評価）　【生】…生徒　【保】…保護者　【関】…学校関係者　【教】…教職員

出雲市立斐川西中学校

項　目	生徒・保護者によるアンケート結果、教職員自己評価の分析による成果と課題	自己評価 と 具体的な改善策	地域学校運営理事会理事（学校関係者）からの意見
学力の充実 （ＩＣＴを活用した教育を含む）	**成果**【生】・グループ学習(3.5)　・家庭学習(3.2)　・宿題, 予習, 復習(3.5)　【保】学力向上への努力(3.1)　【教】・学習規律(3.4)		・タブレット活用について教職員も生徒も評価が低いので、改善していってほしい。 ・生徒が読書に親しむ時間を大切にしてほしい。タブレットの活用と関係するところがあるかもしれないが、どちらも大事にしてもらいたい。
	課題【生】・タブレットの活用(3.0) 【保】・基礎学力の定着(2.8) 【教】・タブレットを活用した授業づくり(2.5) ・読書活動の推進(2.4)	・今年度、全教員が関わる「道徳」でタブレットを活用する対策を取ったが十分ではなかった。来年度は、個人に任せるのでなく、学年部担当が考えたタブレットを活用した授業を他の教員も実施し、活用スキルを身につけ、自分の教科に生かす取り組みを試みる。 ・生徒、保護者の評価も上がっているように家庭学習の習慣は身についてきた生徒が多くなった。しかし、基礎学力の定着は十分とは言えず、学年・生徒の実態に合わせ自学ノートの活用など家庭学習の内容の充実を図っていく。 ・読書活動の推進については、教員によって差があった。来年度は全教員が４つの約束（研究部案）をもとに朝読書の充実を図っていく。	
教育目標 学校運営	**成果**【生】・安心できる学校(3.6)・行事への取組(3.8)　【保】・生徒への親身になった対応(3.3)　【教】・生徒への愛情(3.6)　・教育活動における生徒との協働(3.4)		・体育祭を見学したが、生徒はみな楽しそうだった。生徒、保護者のアンケートからも教職員が愛情をもって生徒に接し、生徒とともに教育活動に取り組んでいる様子が伝わってきた。今後も継続してほしい。 ・花活動や職場体験、斐川講座など地域とのつながりを大切にしている。職場体験先探しで困ったら協力させてもらう。 ・町内各地で行われている行事（文化祭等）のボランティアに生徒たちが各地で積極的に参加している。また、合唱部や吹奏楽部も地域に出かけてもらい地域を盛り上げてもらっている。今後も継続してほしい。
	課題【保】・夢を描ける教育活動(3.1) ・子どもの生活習慣(3.0)	・教職員が校長が示した「つながり」を意識して、愛情をもって生徒一人一人を大切にし、生徒とともに教育活動に取り組むことができた。 ・今年度、地域とのつながりが深い総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しを行った。本校の特色の一つである花活動は、時間削減をしながらも地域とのつながりを大切にする方向で取り組んだ。ただ、教職員の負担はかなりあるので、来年度は、更に負担軽減を図るため、夏季に手のかからない花の選定をする。また、花活動以外の活動については、今年度１年生から見直しを行い、来年度、再来年度と３年間のカリキュラムを構築し、生徒のふるさとへの愛着を高め、自分の夢に向かっていく態度を養っていく。	
教　務 （働き方改革を含む）	**成果**【教】・行事の精選と日程調整(7月3.2→12月3.4)　・時間割編成(7月3.2→12月3.5)　・業務の効率化(7月3.2→12月3.3)		
	課題【教】・来年度の２学期制に向けた取組	・今年度も行事や生活時程の見直しなど業務の効率化を図ってきた。しかし、一週間の時間割作成など担当教員の負担が大きいのが現状である。来年度は新たに２学期制に取り組むこともあり、負担軽減につながる時間割作成ソフトを導入する。また、２学期制に伴う教育課程の見直しによって業務負担軽減を図る。	
研　究 （ＩＣＴを活用した教育を含む）	**成果**【教】・一斉道徳の実施(3.5)　・総合的な学習の時間の計画・実践(3.2)		
	課題【教】・タブレットを活用した授業づくり(2.5) ・進路指導、キャリア教育の計画・実践(2.9)	・タブレットを活用した授業づくりについては、よく活用する教員とそうでない教員で差が出てしまった。別記の道徳での対応に加え、今年度も行ったICT担当教員による校内研修やペア教科での授業研究（タブレット活用を含む）を今後も継続し、全教員を巻き込んでいく。 ・進路指導、キャリア教育について、来年度以降、別記の総合的な学習の時間と同様に３年間を見通したカリキュラムの再構築をしていく。	
総　務	**成果**【保】・適切な情報発信(3.6)　【教】・施設の営繕、修理(3.5)　・保護者・地域への情報発信(3.5)		・学校からの情報発信は、ポルトガル語翻訳もあり、外国籍の家庭にも届いている。今後も積極的に取り組んでほしい。
	課題【教】・避難訓練の実施(3.1)	・避難訓練について、昨年度の反省に基づき、今年度は３回の実施予定を早めの時期（天候の関係）に計画していたが、諸事情により計画通りにいかなかった。来年度も今年度計画した時期で試みる。また、１月６日の実際の地震時の対応を振り返り、来年度の訓練に生かす。	
生徒指導 生徒支援 （部活動、生徒会活動を含む）	**成果**【生】・行事への取組(3.8)　・部活動の取組(3.7)　【保】・善悪の判断, 思いやり(3.3)　・部活動の取組(3.4)　【教】・部活動の取組(3.3)　・生徒会活動の取組(3.3)		・挨拶ができる生徒、できにくい生徒がいる。地域と学校が一体となって根気強く声掛けをしていきたい。 ・自転車の並進走行（２列、３列にとどまらず道いっぱいに広がることもある。）や交差点での一時停止無視などが見られるので、地域、学校が一体となって根気強く指導していきたい。道路環境改善は、市などへ要望していく。 ・生徒支援の充実がうかがえる。今後も継続してほしい。 ・生徒指導上の問題の早期対応が組織的に行われている。今後も未然防止にあわせ、問題が起こった時に早期対応ができるよう組織対応で臨んでもらいたい。また、ネットトラブルの未然防止には、学校での対応だけでなく、家庭と学校が一体となって取り組む必要がある。
	課題【教】・ネットトラブルの未然防止(2.9) ・清掃指導(3.1) 【生】・清掃への取組(3.3) 【保】・子どもの生活習慣(3.0) 【関】・不登校・不登校傾向生徒への対応 ・自転車のマナー ・あいさつ	・ネットトラブルの未然防止対策として、警察や医師による講演会（保護者に案内を出す講演会もある）、学年・学級指導、保護者への出雲市ネットトラブル研修会への参加呼びかけなどに取り組んでいるが、十分とは言えなかった。このネットトラブル未然防止には、保護者の協力が必要不可欠（保護者が主になるもの）なので、PTAと連携して講演会、研修会への参加率を上げたい。（今年度の保護者参加率はかなり低かった。）また、実際にトラブルが起こった際には、警察など関係機関と連携していくことを年度当初の学年PTAなどの際に保護者にしっかり周知する。 ・自転車の交通マナーアップに向け、今年度も登校指導、下校指導、学級指導など適宜指導にあたったが、十分とは言えなかった。来年度は、今年度できなかった生徒会との連携を密にするとともに指導方法を工夫していく。また、地域の主任児童委員さんや見守り隊の方にも応援を仰いでいく。 ・清掃指導について、昨年度の反省を踏まえ今年度改善を図ったが、十分とは言えなかった。来年度も職員間で連携を図り、取組状況の向上を目指していく。また、自転車の交通マナーアップと同様に生徒会と連携を図っていく。 ・今年度も学年間、ほっとルームスタッフ間、日本語指導スタッフ間等でそれぞれにスタッフミーティングを開き、共通理解をしたうえでそれぞれの職務にあたることができた。 ・今年度の生徒支援部会は、学年部の連携強化、学校全体の連携強化、きめ細かな生徒支援を目指し、メンバー構成を変更して月２回以上開催してきたが、目的を十分に達成できたとは言い難い。来年度は、今年度の反省をもとに目的達成のためにどうしていけばよいか、会のあり方を再検討し、生徒支援にあたっていきたい。	
服　務 （働き方改革を含む）	**成果**【教】・服務規則の遵守、業務の協働(3.5)		・部活動の好成績は嬉しいが、教職員の働き方改革も推し進め、教職員のワークライフバランスを充実させてほしい。
	課題【教】・働き方改革を意識した勤務(2.8)	・今年度は働き方改革の推進に向け、外部講師を招き研修会を開いた。その研修会では、職員一人一人が負担軽減の具体策を挙げた。今後は、その具体策をすぐにできそうなもの、来年度試行するもの、今後検討するものなどに分類し、できるところから試行していく。	